令和４年度　大田区立馬込中学校　自己評価　報告書

令和5年3月10日

○　本校の概要

Ⅰ　学校教育目標
人間尊重を基本とし、豊かな個性と創造力をもつ人間形成をめざして
１　健全な心身を育てる　　２　進んで学ぶ態度を育てる　　３　豊かな心情を育てる

Ⅱ目指す学校像
≪生徒・保護者・地域の信託に応える≫
『安全・安心　基礎・基本　正しい言葉　自己肯定感　地域の信頼　』
○ 生徒にとって学校に行くことが楽しみになる学校
○ 地域にとって誇りとなる学校
○ 教職員にとって子どもたちの成長に誇りと働きがいが感じられる学校
○ 保護者にとって子どもを通わせて本当によかったと思える学校

Ⅲ　学校経営の基本方針
「大田区教育委員会の主要施策」をふまえ、本校教育目標の実現と、生徒と教師がともに学び合う学校づくりを目指す。『安全・安心　基礎・基本　正しい言葉　自己肯定感　地域の信頼』をキーワードに全教職員の力を結集し、子供たちが自律し生き生きと輝ける学校経営に努める。

Ⅳ　本校の特色
・生徒会を中心とした地域清掃等のボランティア活動　　・特別支援学級と通常の学級との交流　　・地域との防災訓練　　・生徒主体の行事の実施

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上が回答した。 ２：６０％以上が回答した。 １：６０％未満であった。	3	学校評価アンケート（教職員・生徒・保護者） 「教育活動の場面で多様な他者と協働できるコミュニケーション能力の育成」・「ＩＣＴを活用した授業の実施」等に係る項目において肯定的に回答した割合	４：80%以上 ３：70%以上 ２：60%以上 １：60%未満	3	成果 ・学力の定着を図るために、ICTを活用した授業の充実しているという回答は、３者が９割の肯定的な回答を行った。これは、タブレットを活用した授業について、教員同士の研鑽を積む機会を設けたり、情報を共有できるようにしたりするなどの充実を行ってきた。更なる研鑽の為にこれらの充実を図っていく。 ・他者との意見が違う時も、相手の意見を大切にしていると回答した生徒は９割おり、教職員や保護者も９割が肯定的に回答している。本校は人権を尊重する教育の推進を目指し、特別の教科道徳の授業や学校生活全体の中で多様性を尊重し、一人一人の人権を大切にするようにしてきた成果が現れている。 課題 ・外国語教育指導員（ALT）が会社の事情で２回交代したこともあり、半年間は効果的な活用を行うことができなかった。現在は、休み時間等にALTと話す機会を設けたり、スピーキングを重視した授業展開でALTとの会話を一人一人ができるような体制を整え実施することができるようになった。 ・論理的思考力の育成については、４割の保護者がやや身についていないという回答をしている。筋道を立てて論理的・科学的思考力は、理数系の教科で基礎的なことを身に付けさせ、全教科で育成できる。そのためには、タブレットを効果的に活用したり、学校生活全体の中で問題解決的な授業や仕掛けを教員が行う必要がある。学習面はもちろん、部活動、学校行事、生徒会活動、学校生活全般の見直しをしていく必要がある。 ・タブレットを使用した適切な情報活用能力については、生徒や保護者は８割が肯定的な回答であるが、教職員では６割程度に留まっている。情報活用の為の規範の向上という視点で適切な活用を指導していく必要があり、デジタル・シティズンシップの育成を学校教育全体で系統的に指導していく。	A	4	・論理的な思考力は、り数教科の基礎を育てることだけでなく、それを相手に伝える国語力、語彙力も必要であると思います。理解していても、それを言葉で的確に表現できない子供も増えていますし、様々な経験や体験も不足していると思います。 ・論理的思考力は、学校だけでは身につくものでは無いと思いますので、保護者も協力した上で、考えるべき課題だと思います。 ・情報活用に先生方の努力が伺えます。 ・タブレットの活用は、生徒には非常に必要なアイテムなので、教職員の方々も熟練の上活用を期待します。 ・自己評価はおおむね適切であり、タブレットの活用による指導は、コロナの中での指導で大変さがあった様に思います。タブレットの活用は近年のもので、まだまだ不慣れな事が多いと思いますが、引き続きタブレットの使用のご指導をお願いしたいと思います。 ・デジタル化が進み、先生方も大変ご苦労していると思いますが、子供のためにお願いいたします。 ・授業を拝見する機会が少なく評価すること自体が難しいです。取組評価を見て、おおむね適切なのだろうと思う次第です。
									B	5	
									C	0	
									D	0	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	４：全教員が行った。 ３：８０％以上の教員が行った。 ２：６０％以上の教員が行った。 １：６０％未満であった。	4							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ＩＣＴ機器を活用した授業を実施する。	４：設置教室を使用する全正規教員が週１回以上活用した。 ３：８０％以上の正規教員が週１回以上活用した。 ２：６０％以上の正規教員が週１回以上活用した。 １：６０％未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	４：対象となる全学級（全教員）で行った。 ３：８０％以上で行った。 ２：６０％以上で行った。 １：６０％未満であった。	4							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4							
		タブレットを活用した指導を実施し、生徒の情報活用能力やデジタル・シティズンシップの育成を図る。	４：全正規教員が週1回以上活用した。 ３：８０％以上の正規教員が週１回以上活用した。 ２：６０％以上の正規教員が週1回以上活用した。 １：６０％未満であった。	2							
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	４：対象となる全学級（全教員）で行った。 ３：８０％以上で行った。 ２：６０％以上で行った。 １：６０％未満であった。	3	学校評価アンケート（教職員・生徒・保護者） 「前向きに学習に取り組むことができている」・「学校で実施している補習等へ参加している」等に係る項目において肯定的に回答した割合	４：80%以上 ３：70%以上 ２：60%以上 １：60%未満	3	成果 ・授業が分かりやすく、前向きに取り組んでいると回答した生徒は９割おり、保護者も８割が肯定的な回答している。教職員は、定期考査やミニテスト、ワーク等から生徒の授業の定着を把握し授業改善推進プランを作成し、日々の授業改善に務めている。 ・生徒は８割が家庭学習を行っている。各教科から出される課題や校内で実施するコンテスト（漢字・計算・スペリング）などが家庭学習を取り組むきっかけとなっている。 課題 ・補習授業（水曜・土曜・定期考査前等）への参加や参加させたいと回答している生徒・保護者は３～４割である。補習の内容を明確にして生徒への参加意欲を向上させたり、補修が必要な生徒が参加することで学びの向上を実感できたりするよう、内容の見直しや参加方法の改善を行う必要がある。	A	3	・学校での補習…先生方のご努力を伺えます。生徒は自宅学習や塾等で学び、日々の授業以外の補習を受ける余裕がないように思います。 ・学習補助員等による補習について、現役の学生をアルバイト（教育実習生として活用）を利用検討してもよいのではないでしょうか。 ・ここでしか聞けない特別授業のような補習であれば、意欲向上に繋がるのではないでしょうか。 ・補習という名称の見直しが必要だと思います。ネガティブからポジティブへ。例）なるほど教室、ひらめき教室、スキルアップ教室 ・補習授業については、まず保護者の意識改革が必要であり、学校まかせでは向上しないのではないでしょうか。 ・これからも先生方が学ぶ姿勢を的確に発信できれば、必ず伝わると思うので、引き続き前向きな取り組みを期待しています。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	４:学期に２～３回知らせた。 ３：学期毎に知らせた。 ２：年度間に１回は知らせた。 １：お知らせできなかった。	3					B	6	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	４：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 ３：８０％以上の教員が働きかけた。 ２：６０％以上の教員が働きかけた。 １：６０％以下の教員が働きかけた。	2							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上が回答した。 ２：６０％以上が回答した。 １：６０％未満であった。	4					C	0	
		検定（漢字・数学・英語）の試験を推進し、学習への意欲を高める。事前の学習講座や定期考査前の学習教室を実施し、学習を支援する。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4					D	0	
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	４：全教員が行った。 ３：８０％以上の教員が行った。 ２：６０％以上の教員が行った。 １：６０％未満であった。	3	学校評価アンケート（教職員・生徒・保護者） 「いじめは全体にいけないと思っている」「スクールカウンセラーと話したことがある」等に係る項目において肯定的に回答した割合	４：80%以上 ３：70%以上 ２：60%以上 １：60%未満	4	成果 ・いじめは絶対にいけないと思っている生徒はほぼ全員である。生徒全員となるよう、継続して教職員と保護者が同じ方向を向いて、いじめがいけないこと・いじめを根絶するということを生徒へ伝えていくこと・指導していくことを行っていく。 課題 ・学校生活調査やHyper-QUを実施し、不登校や支援が必要な生徒に対しては組織的対応は、これまで同様に組織的に対応してきてるが、保護者への周知をしていく方法を模索していきたい。 ・スクールカウンセラーの活用が生徒・保護者共に２割である。生徒の心の健康がアンケート結果からも読み取れるが、一方では、利用しにくい・利用したいがどうしたらよいかわからないという声も聞く。スクールカウンセラーが生徒にとって身近な存在になるよう、１学年全員が３名のスクールカウンセラーと顔合わせの為の面談を行っている。また、相談室便りを定期的に発行し、保護者への周知も行っている。今後は、生徒がスクールカウンセラーとの顔合わせを年度当初に行うなど、教員以外の相談できる場所があることの周知方法の改善をしていく。	A	4	・豊かな個々との育成の取り組みは大変難しい指導です。大人社会でも交通ルールを守れない、守らない、わかっているけれど守れない、誰も見ていないから皆もしているから、大人もやっているから…こんな風潮に流されているのではないでしょうか。根気強くご指導ください。 ・いじめに関わらず、問題行動において、学校・家庭・地域が社会的ルールを共有して取り組んでいくことが大切であると考えます。 ・いじめ・問題行動を未然にうせいでいくことは一番大切ですが、いざ起きた場合にどのような対応をするのかが重要だと思います。そのためにも、家庭や地域への情報の発信は必要です。学校だけで抱えていては、根本的な解決にならないこともあります。（もちろん、個人情報の管理は必要です。） ・スクールカウンセラーに相談すること自体に抵抗があるのでしょうか。人に知られたくないことも多い年代です。人の目も気になります。相談しやすい場所があるのを周知していくのには賛成です。 ・スクールカウンセラーの具体的な所はわかりませんが、生徒から見るとスクールカウンセラーは別格になって、敷居が高いのでしょうか。身近になるといいですね。 ・スクールカウンセラーの他校のよい事例等を取り入れられないでしょうか。 ・カウンセラー室がマイナスイメージのようなので、馬中談話室と名称の変更をしてみてはどうでしょうか。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	４：学期に２～３回（年間６回）以上行った。 ３：学期に１回（年間３回）以上行った。 ２：年度間に1回以上行った。 １：実施しなかった。	4					B	5	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	3							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	3					C	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	４：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 ３：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 ２：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 １：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3							
		スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を密にし、生徒理解を深める取組を推進する。	４：「推進できた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	3					D	0	
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4	学校評価アンケート（教職員・生徒・保護者） 「スポーツ活動の習慣化や規則正しい食生活を送る」・「生徒会活動、委員会活動、部活動等への取り組み」等に係る項目において肯定的回答の割合	４：80%以上 ３：70%以上 ２：60%以上 １：60%未満	4	成果 ・コロナ下であるが、生徒は８割以上が部活動や休み時間に体を動かすことが出来ている。休み時間にも生徒は元気よく校庭で遊んでいる生徒が多く見られる。引き続き、運動ができる環境を整え、生徒の運動習慣の定着を図っていく。 課題 ・規則正しい生活を送ることや栄養のバランスについて考えることなどの意識向上について、生徒・保護者共に２割前後の意識できていないという回答がある。「早寝・早起き・朝ごはん月間」や保健体育や家庭科の授業だけではなく、日々の生活の中で生徒が健康に過ごせるような啓発が必要である。委員会活動などを活用しながら生徒自身がそれらについて学びあえる環境を整えたり、啓発していくことなどの改善を図っていく。	A	5	・この課題も保護者の協力なくしては、成立しないと思います。 ・心身ともに急成長の時期ですので、学校と家庭両方で配慮が必要だと思います。 ・適切に行われている。 ・健康面の先生方のご指導に感謝いたします。 ・現状を継続してほしい。お金を使わず、有効的な時間配分にて効率の良い運動、、体力作りを生徒に考えていただき、提案して取り入れたらどうでしょうか。 ・早寝・早起きは昔から言われている事、それがいまだに出来ないのはなぜか…個人個人に合った生活リズムを考える必要がるように思います。 ・給食は、年中行事もメニューもあり、食をそそるようで素晴らしいです。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	3					B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4					C	0	
		全教員が部活動や委員会活動を担当し、日常的に体を動かす習慣を付けさせる。	４：全教員で行った。 ３：８０％以上の教員で行った。 ２：６０％以上の教員で行った。 １：６０％未満であった。	4					D	0	
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	4	学校評価アンケート（教職員・生徒・保護者） 「わかりやすい授業のために工夫や改善をしている」・「わからない時に序言やわかるまで教えてくれる」等に係る項目において 肯定的に回答した割合	４：80%以上 ３：70%以上 ２：60%以上 １：60%未満	4	成果 ・生徒や保護者は８割以上が教員はわかるように授業をしているという肯定的な回答を行っている。引き続き、授業改善に努め生徒がわかると実感でき、定期考査等で目に見える成果がでるような授業を実践していく。 課題 ・総合的な学習の時間等での課題解決型の授業を進んで行っている生徒が８割いるが、生徒・保護者は１から２割程度がそう思っていないと回答している。生後が主体的に課題を見つけ、情報収集整理を行い、相手意識をもってまとめていけるような授業改善の必要がある。また、総合的な学習の時間の内容についても問題解決的な学習となるよう再検討を行っていく。	A	6	・生徒は主体的に学んでいると思います。 ・全体から考えると良い数字だと感じます。 ・難しい問題もあると思いますが、何回行ったではなく、どのくらい理解できたかが問題ではないでしょうか。子供たちも知恵がつき、難しい指導とは思いますが、根気強く指導をお願いいたします。 ・相手意識をもってまとめていけるような授業については、具体案の立案が必要だと思います。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	４：学期に２～３回（年間６回）以上行った。 ３：学期に１回（年間３回）以上行った。 ２：年度間に1回以上行った。 １：実施しなかった。	4					B	3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が回答した。 ２：６０％以上の教員が回答した。 １：６０％未満であった。	3							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	４：月1回以上行った。 ３：学期に2～3回行った。 ２：学期1回以上行った。 １：実施しなかった。	3					C	0	
		生徒による授業アンケートを年2回実施し、授業改善に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０％以上の教員が「おおむねできた」と回答した。 ２：６０％以上の教員が「おおむねできた」と回答した。 １：「おおむねできた」と回答した教員が６０％未満。	3					D	0	
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	学校評価アンケート（教職員・生徒・保護者） 「学校は、学校の様子を保護者・地域に伝えている」「ボランティア活動に参加している」等に係る項目において肯定的に回答した割合	４：80%以上 ３：70%以上 ２：60%以上 １：60%未満	3	成果 ・学校便りや毎週１回の学年便りの発行や学校ホームページ等での情報発信について、９割の生徒・保護者が肯定的に回答をしている。引き続き、適切な情報を発信していくと共に、ホームページを活用して、学校から発信する情報を素早く保護者に伝わるように改善していく。 課題 ・地域清掃などのボランティア活動に参加している生徒が５割に満たない。コロナ下で中止になってしまったイベントへの参加ができなくなってしまったことにも起因している。地域を大切にする心を育むためにも積極的にイベントなどのボランティアに参加できるように、校内でのボランティアマインドを育成していく。	A	5	・現在通学している生徒ならびに保護者が馬込に住んでいるが、地元の人でない方が多くなっている。馬込の歴史又は、著名人を紹介しながら、馬込を取り囲む環境を理解してもらいながら、協力して頂くのはどうでしょうか。又、学校に来やすく、話しやすい学校・地域を一緒になって、一つの目標を決めて活動してみてはどうでしょうか。 ・魅力あるサプライズが出来るように活動していきます。 ・コロナ禍で、過去３年間を振り返ると、よく検討していると思います。今後は、生徒さんたちと一緒にボランティア活動が出来るように、町会も協力したいと思います。 ・今年度もコロナ禍で、地域行事のほとんどが中止になりました。馬込中学校の生徒さんや先生方との交流ができなかった事がとても残念です。今年５月のコロナ５類移行によって、以前のようなコミュニケーションが少しでも活気が出て来ることを願います。 ・見やすい資料をいただき、ありがとうございます。写真・文字等すばらしいです。 ・この先、コニュニティースクール制度の導入に期待します。 ・地域清掃など、友達と誘い合い当日参加もあれば尚よいのではないでしょうか。 ・コロナ禍で、中学生交流会が３年も中止になり、中学生の行事が行えず、青少対として心苦しく思います。中学生に特化した行事になると、地域内の３校との交流が主になってしまいますので、今後は、小中学生一緒にあるいは親も参加できるような行事を模索したいと思います。また、ガーデンパーティーへの参加やボランティア等においても中学生が地域の中で生き生きと過ごせるように考えてまいります。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	４：毎回情報を提供した。 ３：おおむね情報を提供した。 ２：あまり情報を提供しなかった。 １：情報を提供しなかった。	4					B	4	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	４：学期に2～3回行った。 3:学期１回以上行った ２：年１回以上行った。 １：実施しなかった。	4							
		学年だよりを週1回発行し、生徒の様子をきめ細かく保護者に伝える。	４：対象となる全学年で行った。 ３：８０％以上で行った。 ２：６０％以上で行った。 １：６０％未満であった。	3					C	0	
		各学年で地域についての学習を行い、地域の一員としての自覚を養う。	４：対象となる全学年で行った。 ３：８０％以上で行った。 ２：６０％以上で行った。 １：６０％未満であった。	2					D	0	

○「成果評価」は、各校が４段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価はおおむね適切である　Ｃ：自己評価は適切ではない　Ｄ：評価は不可能である　の４点について、 評価した人数を記載する。